

身延山大学教養選書

I

インドの大地と仏教

身延山大学仏教学部編

山喜房佛書林

目次

発刊の辞……………i

身延山大学長 浜島 典彦

釈尊の足跡……………1

池上 要靖

一 はじめに……………1

二 釈尊の生没年について……………3

三 仏蹟とは何か……………11

四 仏弟子「法顕」の見た仏蹟地……………18

五 カピラ城く生誕の地ルンビニー……………20

六 入滅の地クシナガラ……………25

七	成道の地ブツダガヤ	27
八	初転法輪の地ミガダーヤ（鹿野園、サルナート）	31
九	おわりに	33

釈尊の遺跡を掘るゝ先学の足跡からゝ……………37

松原 典明

一	はじめに	37
二	ネパールの位置	40
三	ルンビニー周辺の遺跡	42
四	文献に記されたルンビニー	46
五	生誕地を求めてゝルンビニーの考古学的な調査前史	55

六	マヤ堂の調査に至る経緯と経過	63
七	マヤ堂と遺構群	68
八	マヤ堂の調査	74
九	世界文化遺産登録と保存方法と巡礼	82
十	カピラ城の発掘〜テイラウラコット遺跡〜	83
	チベット仏教における肉食と飲酒をめぐる	95
	望月 海慧	
一	はじめに	95
二	チベットへの仏教伝承	98
三	チベット仏教の各宗派	102

四	チヨナン派とトルプパについて	105
五	『肉食と飲酒を禁止する聖典』	109
六	小乗經典に説かれる飲酒の禁止	110
七	大乘經典に説かれる飲酒の禁止	114
八	密教經典に説かれる飲酒の禁止	119
九	小乗經典が説く肉食禁止	129
十	大乘經典が説く肉食禁止	130
十一	密教經典に説かれる肉食禁止	143
十二	むすび	149
	旅人の目から見るネパール人の信仰	155

山田 英美

一	はじめに	155
二	ネパールとインド	160
三	ヒンドウ教の神々——破壊・創造・維持の神	165
四	信心は生きる道	171
五	ネパールの仏教徒と神仏融合の姿	174
六	神聖と汚濁と	181
七	四住期 <small>しじゅうき</small> の思想	184
八	移行対象としての神々の像	188
九	ネパールの人の死と祈り	189
十	ネパールにおけるカトリック	191
十一	むすび	194

あとがき

.....

編集代表 池上 要靖

199

著者紹介

身延山大学教養選書Ⅰ

インドの大地と仏教

平成二十五年三月三十一日 発行

身延山大学仏教学部 編

刊行 身延山大学

〒409-2597 山梨県南巨摩郡身延町身延三五六七

電話〇五五六―六二―〇一〇七

発行所

株式会社山喜房佛書林

〒113-0033 東京都文京区本郷五丁目二八番五号

電話〇三―三八―一―五三六一

印刷所 長野印刷商工株式会社

© 2013 Printed in Japan

ISBN978-4-7963-0761-1

身延山大学教養選書

Ⅱ

アジアに広まる仏教

身延山大学仏教学部編

山喜房佛書林

目次

序文……………1

身延山大学長 浜島典彦

第1章 中国西域に伝わった仏典……………1

身延山大学教授 望月海慧

- 一 はじめに……………3
- 二 インドの仏典のことば……………4
- 三 インドの文字……………8
- 四 西域に伝わった仏典……………13
- 五 中央アジア探検……………15
- 六 チベット語仏典……………18

七	イラン語・テュルク語系	21
八	西夏語・モンゴル語	27
九	漢語	30
十	まとめ	32

第2章	ラオスで仏像に向きあう	35
-----	-------------	----

身延山大学教授 柳本伊佐雄

一	はじめに	37
二	ラオスの概略と歴史	41
三	ランサーン王国とパバーン仏	43
四	主な寺院と仏像	46
	ワット・マノローム	46
	ワット・ビスンナラート	48

	ワット・シエントーン	50
五	セタテイライト王とエメラルドブッタ	52
六	ラオス仏像の時代的特徴	58
七	ラオス仏像の種類	63
	石像 63／ブロンズ像 64／木像 65／玉仏像 66／鍛金仏像 67／ パタイペット像 68／その他の仏像 70	
八	仏像修復	71
九	終わりに	74
第3章	神と仏	77
	身延山大学教授 長又高夫	
一	はじめに	79

二	神々の習合	81
三	道教と仏教との関係	84
四	神道と仏教との関係	90
五	日本仏教の特徴	96
六	道教文化のわが国に及ぼせる影響について	102
七	近世における神・儒・仏の関係	105
八	複合文化としての日本文化	109
九	おわりに	120
第4章	日本における法華信仰のすがた	129
	身延山大学教授 望月真澄	
一	はじめに	131

二	日本仏教と法華信仰……………	131
	法華仏教の伝播 131／聖徳太子と仏教 132／奈良仏教と法華信仰 135／	
	平安時代と法華仏教 136／鎌倉時代と法華仏教 137／『法華経』と道元 138／	
	『法華経』伝来の歴史 139／天台宗と日蓮宗 141／密教と加持祈祷 144／	
	『法華経』の伝来過程 145／法華信仰と法華経信仰 146	
三	日蓮教団と法華信仰……………	147
	日蓮宗の法華信仰 147／『法華経』の読誦 148／『法華経』の教え 148／	
	守護神と加持祈祷 151	
四	法華信仰の形態……………	152
	『法華経』の文字数 152／民衆仏教としての日蓮宗 153／	
	民衆が参加する御会式 154／日蓮展開催 155／江戸城大奥女性の信仰 156／	
	祖師信仰と守護神信仰 158／『法華経』と加持祈祷 158／	
	修法師の修行 160／日蓮宗の曼荼羅本尊 161／曼荼羅本尊の仏菩薩 161	

五 まとめに……………164

第5章 近代日本と仏教……………167

身延山大学教授 三輪是法

一 宗教政策からみる近代日本……………169

江戸後期の仏教批判 169 / 神仏分離と廃仏毀釈 173 / 日蓮宗の動向 177

二 廃仏毀釈からの解放……………183

三 信仰・教学の近代化……………190

井上円了・清沢満之 190 / 復古主義と進歩主義 194

参考文献……………199

目次

執筆者紹介	213
編集後記	209
編集代表 三輪是法	

身延山大学教養選書Ⅱ

アジアに広まる仏教

平成二十八年三月三十一日 発行

編著者 身延山大学仏教学部

浜島典彦／三輪是法／金 炳坤

著者 望月海慧／柳本伊佐雄／長又高夫

望月真澄／三輪是法

刊行 身延山大学

〒409-2597 山梨県南巨摩郡身延町身延三五六七

電話〇五五六―六二一〇一〇七

発行所 株式会社山喜房佛書林

〒113-0033 東京都文京区本郷五丁目二八番五号

電話〇三―三八―一―五三六一

印刷所 長野印刷商工株式会社

© 2016 Printed in Japan

ISBN978-4-7963-0788-8

身延山大学教養選書

Ⅲ

仏教福祉と家族問題

身延山大学仏教学部編

山喜房佛書林

目次

発刊の辞…………… i

身延山大学生涯学習委員会委員 金 炳坤

序…………… iv

身延山大学仏教学部長 池上要靖

第一章 积尊とその家族…………… 1

身延山大学教授 望月海慧

一 はじめに…………… 3

二 积尊の出家…………… 4

三 积尊の家族構成…………… 8

四	釈迦族の系譜	11
五	釈尊の両親	13
六	釈尊の妃	17
七	釈尊の子	21
八	釈尊の兄弟	24
九	釈尊の従兄弟	27
十	仏典に説かれる親子関係	31
十一	『法華経』に登場する釈尊の家族	36
十二	まとめ	40

第二章 日蓮聖人のお手紙に見る家族のあり方……………43

身延山大学准教授 木村中一

一 はじめに……………45

「死身弘法」 45／檀越に宛てた書状の内容 46

二 夫・息子に先立たれた女性への手紙―「光日房御書」―……………48

「光日房御書」とは 48／聖人の父母に対する想い 50／

光日尼からの手紙 54／子を亡くした母への慰め 57

三 親への孝養に対する賞賛と信仰の継承―「千日尼御返事」―……………62

「千日尼御返事」とは 62／供養に対する返礼と阿仏房の成仏 63／

男と女―夫婦のあり方― 64／親に対する孝養への賞賛 67／

周囲に対する気遣い 69

四 むすびにかえて……………70

第三章 家族の幸せと仏教福祉―共に生きる―……………73

立正大学非常勤講師 吉村彰史

一 はじめに……………75

二 「幸せ」の秘訣……………76

慈しみのお経 76 / こよなき幸せ 79

三 親を思う、子どものこころ……………81

母の恩 81 / まことの孝養 84

四 夫婦の愛……………86

王さまとお后さま 86 / 『シンガーラへの教え』 89

五	親子のこころがまえ	91
六	子を思う親の心	94
	母親の愛情 94 / 父親の愛情 96 / 「三車火宅の喩」 97	
七	子どもの純粹な心	102
	お掃除をすること 102 / トイレの話 104 / 「子ども」の「いのち」 110 / 子どもを授かるということ 112	
八	「子育て」と「教育」	116
九	「老い」と介護	119
十	「ケア」ということ	122
十一	生者と死者の「ケア」	125
	回向と供養 125 / グリーフケア 127 / 看取りの作法「臨終行儀」 130	
十二	終わりに	132

第四章	看取り―施設で亡くなるということ―	137
	身延山大学特任講師 中野一茂	
一	はじめに	139
二	多死時代を迎えて	140
三	看取り介護について	147
四	在宅で亡くなった場合	153
五	看取り介護の実際	154
六	グリーンケアについて	168
	参考文献	175

編集後記……………

183

身延山大学生涯学習委員会委員長 長又高夫

《執筆者略歴》・《編集者略歴》・《責任編集者略歴》……………

186

身延山大学教養選書Ⅲ

仏教福祉と家族問題

平成二十九年三月三十一日 発行

編著者

身延山大学仏教学部

池上要靖／長又高夫／金 炳坤

著者

望月海慧／木村中一／吉村彰史

中野一茂

刊行

身延山大学

〒409-2597 山梨県南巨摩郡身延町身延三五六七

電話〇五五六―六二―〇一〇七

発行所

株式会社山喜房佛書林

〒113-0033 東京都文京区本郷五丁目二八番五号

電話〇三―三八―一―五三六一

印刷所

長野印刷商工株式会社

© 2017 Printed in Japan

身延山大学教養選書

IV

仏教芸術が創る世界

身延山大学仏教学部編

山喜房佛書林

目次

序 1

身延山大学長 持田貫宣

第一章 雅楽について—仏教音楽としての雅楽を考える— 1

日蓮宗宝珠山延命院住職 下宮高純

一 雅楽とは	3
二 平調越殿楽	4
三 鳳笙	6
四 箏 箏	11
五 龍笛	14
六 楽琵琶	16

七	楽 箏	19
八	打楽器	21
九	雅楽の歴史	24
十	仏教と雅楽	27

第二章 身延山流声明―その淵源と成立まで― 35

身延山大学教授 池上要靖

一	声明を理解する	37
	仏教行事と声明 37／声明と法要 41／	
	声明の淵源 43／仏教の受容と展開 52	
二	声明の伝来	58

中国への仏教伝来	58	中国の十二律	60
中国古典音楽と声明	62	日本への伝来と展開	71
魚山大原声明	74		
三			
身延山流声明	77		
身延山流声明の系統	77	身延山流声明の展開	81
身延山流声明の曲目	90	身延山流声明の理論	93
四			
むすび	99		
第三章			
東京藝術大学と文化財保護―彫刻文化財を中心に―	101		
東京藝術大学大学院教授		藪内佐斗司	
一			
はじめに	103		

二	さまざまに変身するせんとかん	105
三	東京藝術大学と岡倉天心	107
四	東京藝術大学大学院の文化財保存学とは	110
五	仏像修復の実例	113
	〈青蓮寺愛染明王坐像〉	113 / 〈西念寺阿弥陀如来坐像〉
	〈光照寺地藏菩薩立像〉	116 / 〈善光寺阿弥陀如来立像〉
	〈大慈仙町薬師如来坐像〉	121
六	仏像制作の事例	123
	〈陸前高田のおやこ地藏の制作〉	123 /
	〈磐梯町慧日寺薬師如来坐像の復元〉	126
七	おわりに	129

第四章 関西の法華霊場と法華信仰 131

身延山大学教授 望月真澄

一 はじめに 133

二 関西の法華霊場 134

関西の巡拝霊場 135 / 京の七口と七口の塔 137 /

日蓮聖人の霊場 139 / 身延山信仰の霊場 140

三 妙見信仰の霊場とその信仰圏 142

京都の妙見霊場 142 / 能勢の妙見霊場 144 /

夫婦池の妙見さん 146 / 千日前の妙見さん 148 /

妙見信仰の地方伝播 151

四 日蓮宗僧侶の守護神化と寺院の布教活動 153

守護神としての日審上人 154 / 守護神としての日親上人 155 /

関西法華寺院の学校創立 156

五 関西の法華信仰の人々 160

茶屋家の法華信仰 160 / 雁金屋（尾形家）の法華信仰 161 /

八幡屋（谷口家）の法華信仰 165 /

六軒屋（鴻池家）の法華信仰 169 /

天王寺屋（大眉家）の法華信仰 171 /

泉屋（住友家）の法華信仰 173 /

薩摩屋（川端家）の法華信仰 175 /

近松門左衛門の法華信仰 177 /

大阪百部経と樋屋家の法華信仰 181

六 おわりに 186

第五章 身延山久遠寺と近代の伽藍

—登録有形文化財（建造物）への登録をめぐる— …… 189

身延山久遠寺宝物館学芸員 林 是恭

一 はじめに …… 191

二 身延山の文化財調査 …… 197

身延山久遠寺文化財調査研究委員会の発足 197／

文化財建造物のリストアップ 200／未指定建造物の検討 205／

近代和風建築総合調査 207／身延山の近代和風建築調査 209

三 身延山の登録有形文化財 …… 212

①祖師堂及び御供所 218／②御真骨堂拝殿 220／

③仏殿納牌堂 221／④大客殿 222／⑤法喜堂 223／

⑥ 旧書院	224	/	⑦ 新書院	225	/	⑧ 大鐘楼	226	/
⑨ 時鐘楼	227	/	⑩ 甘露門及び門番所	228	/	⑪ 太子堂	229	/
⑫ 三門	230	/	⑬ 本地堂	231	/	⑭ 祖廟塔	232	/
⑮ 常唱殿	233	/	⑯ 三昧堂	234	/	⑰ 水行堂	236	/
⑱ 瑞門	237	/	⑲ 思親閣仁王門	238				
四 身延山歴史遺産のこれから	240							

参考文献	247
------	-----

編集後記	257
------	-----

編集代表 金 炳坤

《執筆者略歴》・《編集者略歴》	267
-----------------	-----

身延山大学教養選書Ⅳ

仏教芸術が創る世界

令和二年三月三十一日 発行

編者

身延山大学仏教学部
持田貫宣／金 炳坤

著者

下宮高純／池上要靖／藪内佐斗司
望月真澄／林 是恭

発行者

身延山大学
〒409-2597 山梨県南巨摩郡身延町身延三五六七

電話〇五五六―六二―一〇七

発行所

株式会社山喜房佛書林
〒113-0033 東京都文京区本郷五丁目二八番五号

電話〇三―三八―一一五三六一

印刷所

株式会社イーフォー

©2020 Printed in Japan